

## 卷頭言

# 法学部創設二〇周年記念号の刊行にあたって

久留米大学法学部は二〇〇六年、創設二〇周年を迎えました。二〇〇八年が本学の創立八〇周年ですから、法学部は久留米大学の歴史の約四分一の時を経過したことになります。現在法律学科と国際政治学科の二学科で、在學生は約千六百名、送り出した卒業生は約五千三百名になります。第一回卒業生の多くがほどなく四〇歳、人生の不惑の年を迎えようとしています。卒業生は各分野におけるめざましい活躍で、久留米大学法学部の社会的評価を高めています。

法学部二〇年の歴史の中で画期的なのは、二〇〇四年に法科大学院を設置したことです。法曹を養成する法科大学院は、司法制度改革の重要な柱です。法科大学院の設置は法学部の社会的使命であるとともに、法学部さらには久留米大学の誇りでもあります。とはいえ、小規模大学による法科大学院開設は、想像以上の苦労があります。西嶋法友法学部長時代に準備委員会を設置し、開設の検討をするとともに、文科科学省と認可申請の事前折衝を始めました。最終段階の二〇〇三年度から宗岡嗣郎法学部長が、認可申請の仕上げを担当されました。東孝行法科大学院長は計画の当初から完成年度まで、一貫して献身的な努力を傾けてこられました。この三人の先生を核にして、法学部の教員および法科大学院の専任スタッフが一体となって支えてきました。二〇〇六年には法科大学院第一期修了生から、新司法試験合格者を出すことができました。また留学生からは中国の司法試験合格者が出て、上海の法律事務所活躍することになっていきます。本学出身者から法曹に進む卒業生はまだ少数ですが、法学部の歴史に新たな足跡を残すことになりました。この小さな流れが、今後大きな流れになってほしいものです。

法曹の分野への貢献も法学部の役割ですが、さらに重要なのは法律学や国際政治学を学んだ学生を、いろんな分野

で活躍できる人材として社会に送り出すことです。学生が豊かなりーガルマインドと卓越した国際感覚をもつ市民に育つ教育が、法学部の社会的責務であり使命です。

法学部はこれまで開設から五年ごとに学生・市民の皆様々に記念講演会を企画してきました。五周年の伊藤正己最高裁判事、一〇周年の芦部信喜東大教授、一五周年の佐藤幸治京大名誉教授に続きまして、二〇周年記念講演には柏木昇東大名誉教授・現中央大学法科大学院教授をお迎えしました。伊藤、芦部、佐藤の三先生は憲法学の大家ですが、柏木先生は国際経済法・国際取引法の第一人者です。講演のテーマは「法文化の多様性と国際取引」でした。今日の国際社会では経済のグローバル化が人々の日常生活にも大きな影響を与えております。こうした時代状況を考えますと、またとない講師に、またとないテーマで、この記念すべき年にご講演いただくことができましたのは、誠に喜ばしいかぎりです。柏木先生の記念講演は、この二〇周年記念号に論文として掲載させていただきました。

今日、激しい少子化が進むなかで、大学・法学部を取り巻く環境には厳しいものがあります。私たちは法学部創設の原点を想起し、法律学と国際政治学の教育研究を通して、さらなる社会的貢献をしていく決意を新たに、二〇周年記念号の巻頭の辞といたします。

二〇〇七年二月

法学部長 阿部和光